

0022-12

会場:303

時間:5月23日 11:30-11:45

## ジオパーク千年構想 Next millennium vision for Geoparks in Japan

渡辺 真人<sup>1\*</sup>, 日本ジオパークネットワークジオパーク千年構想準備委員会<sup>2</sup>  
Mahito Watanabe<sup>1\*</sup>, Committee for next millennium vision of Geoparks in Japan<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所地質情報研究部門, <sup>2</sup> 日本ジオパークネットワーク

<sup>1</sup>Geological Survey of Japan, AIST, <sup>2</sup>Japan Geoparks Network

日本列島のような変動帯においては、地震、火山噴火などが人間生活に大きな影響を与えてきた。地震の発生間隔や火山の噴火の間隔などは、数百年、数千年、あるいはそれ以上と人間の生活感覚とはかけ離れた時間スケールを持つ。日本列島で安全に暮らしていくには、こうした変動帯の自然災害に強い地域社会を作ることが重要である。しかし、地球の変動の時間スケールは十分に市民に理解されているとは言えず、地域計画に長期的な視点が取り入れられることは少ない。

こうした状況を改善し、変動帯において持続可能な地域社会をつくるために、日本ジオパークネットワーク(JGN)は、ジオパーク千年構想プロジェクトを推進することを決めた。ジオパーク千年構想プロジェクトは、以下のようなことを目的とする。

- ・各ジオパークに住んでいる人が、その地域のこれまでの歴史(地質学的な昔も含めて)をよく理解する。地域が地球の上で地球科学的に見てどういう場所にあるのか、地域の地形がどうやってつくられたのか、そこで人間がどう暮らしてきたのかを専門家の手を借りて地域住民がよく理解する。

- ・その上で千年後に自分たちの地域がどうあるべきか、それに向けて何を今からしていけばよいか、向こう千年間に起こりうることを想定した上で構想をつくる。

- ・地震・火山などの災害、あるいは地球環境問題などを地球科学的視点から考えて、その上で地域の持続可能な発展を考えていくためには、五年十年百年ではなく千年を考えた地域構想が必要である、ということを経験した構想を例にジオパークから社会に訴える。

- ・こうした作業を地域の若い人や児童生徒が中心となって行う。そのような過程の中で、科学的で長期的な視点で地域社会、ひいては人間社会の将来を考えられる人材をジオパークで育てる。

このような目的のために日本ジオパークネットワークに千年構想準備委員会を設け、議論を進め、まず以下のようなことを始めている。

- ・千年構想の考え方をまず広く知ってもらうための広報・普及活動。

- ・各ジオパークで、地元の地球科学の専門家、郷土史家等が集まって、少なくとも千年以上さかのぼって各地域の歴史をまとめ、それを地図などにまとめて表現する。現在、各地域で古地図を集めて地域の変遷をまとめていくなどの活動が始まっている。

ジオパーク千年構想により、地域に住む人が自らのすむ地域の特性に気付き、その特性を生かした自然災害に強い地域づくりを進めていくこと、またその過程で地球科学が重要な役割を果たし、社会に受け入れられ広く活用されるようになることが期待される。

キーワード: ジオパーク, 地学教育, 地域開発, 持続可能な発展

Keywords: Geopark, Education of Earth Science, Regional development, Sustainable development